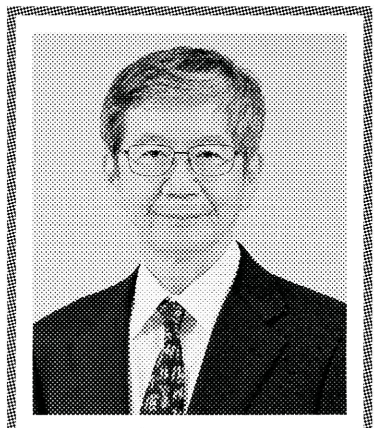
面ID=日刊工業．１０月　２日．全国．１３版．【編特１】 LMP03
出力時刻=10/01 14:48 出力指示時刻=2025/10/01 14:48

働く人の安全・健康・ウェルビーイング

万博で国際標準化宣言

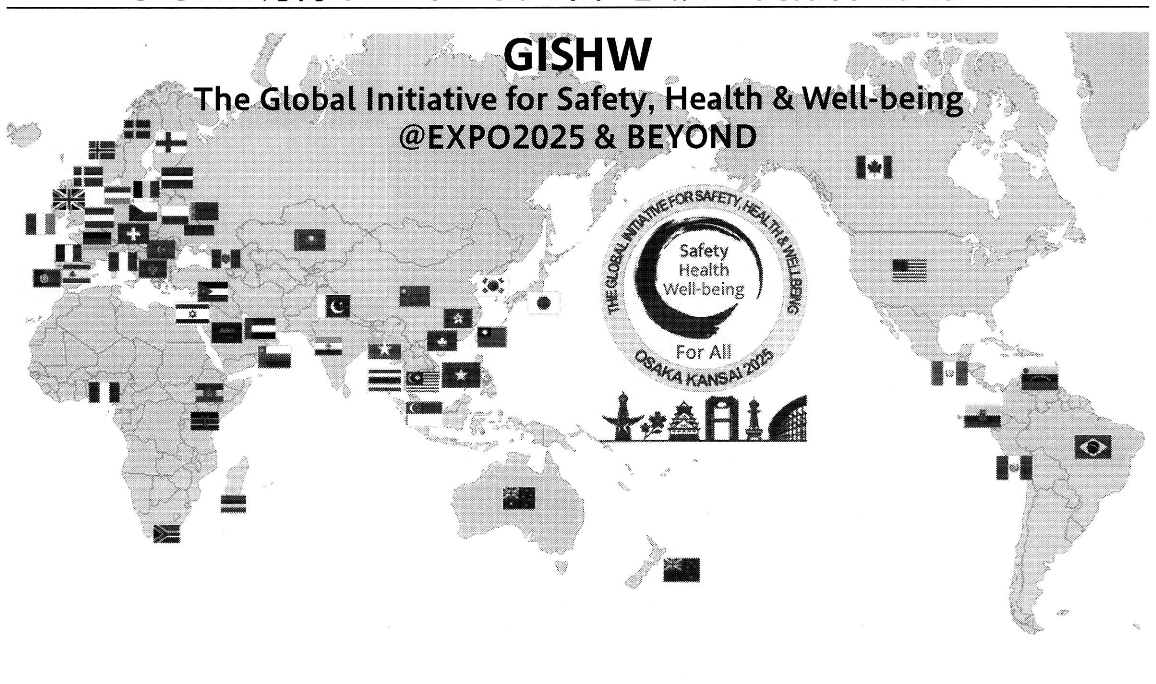


日本規格協会
理事長

朝日 弘

東大工卒。82年（昭57）通商産業省（現経済産業省）入省。10年官房審議官（エネルギー・環境担当）、12年官房技術総括審議官。13年住友金属鉱山入社。21年から現職。

GISHW万博イベントに68の国・地域から関係者が参集した



日本規格協会（JSA）は、7月16日と17日の2日間、大阪・関西万博のにぎやかな会場で国際標準化に関するイベントを開催した。このイベントは、「いのち輝く未来社会のデザイン 安全・健康・ウェルビーイングと標準化」をテーマに掲げ、標準化の取り組みの意義や重要性を強く訴えた。

このイベントは、GISHW（Global Initiative for Safety, Health & Well-being @EXPO2025 & BEYOND）が主催する「未来への贈り物－80億人の安全、健康、ウェルビーイング」と題する4日間の一大イベントのプログラムの一環として、経済産業省の支援を受け、GISHWと共催したものだ。

ＩＳＯ、ＩＥＣトップが同壇上に

1．国際標準化フォーラムの主催

7月16日、JSAは、EXPOサロンにて「国際標準化フォーラム」を盛大に開催した。特に、国際標準化機構（ISO）のSung Hwan CHO会長、国際電気標準会議（IEC）のJo COPS会長という世界の標準化をけん引する二つの国際標準化機関のトップが同じ壇上に立つという世界的にも貴重なイベントとなり、参加者の大きな関心を集め、当初の想定を大きく上回る約300人が来場した。

会場は国際色豊かな参加者で埋め尽くされ、急きょ臨時席を設けるほどの熱気に包まれた。政府関係者や幅広い企業・産業団体からも参加いただき、今回のテーマ「安全・健康・ウェルビーイングと標準化」への社会的な関心の高さがうかがえた。

ＡＩ・ロボ 協調安全実現

フォーラムで標準化の意義再確認

フォーラムは、日本産業標準調査会（JISC）の遠藤信博会長による開会あいさつで幕を開けた。遠藤会長には、日本の国際標準化活動の存在感を力強くアピールしていただいた。

続いて、ISOのCHO会長と、IECのCOPS会長による基調講演では、国連の持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた各機関の貢献について、率直な意見を頂戴した。

2．専門家による三つのパネルディスカッション

開会あいさつ・基調講演に続き、国内外の第一線で活躍する広範な分野の専門家18人が登壇し、三つのパネルディスカッションを行った。

第一部：AI、ロボティクスによる協調安全の実現①

「テクノロジー」をサブテーマに、6人の専門家が発表を行い、議論を交わした。モデレーターはIECのSteven MARG IS副会長が務め、海外の方が4人参加するなど、国際色豊かなものとなった。

米エヌビディアのRiccardo MARIANI産業安全担当副社長は、AI（人工知能）が車の自動運転などの安全性向上に貢献する事例を挙げ、技術の進展に合わせたタイムリーな標準化の重要性を強調した。最先端技術を産業活動に安全に活用するためには、標準化が大きな意義を持つことを再確認できた。

第二部：AI、ロボティクスによる協調安全の実現②

エヌビディア副社長登壇

「2025年大阪・関西万博安全・健康・ウェルビーイング標準化宣言」を提案し、フォーラムを閉会した

「国際標準化フォーラム」の登壇者

「現場実装及びマネジメント」をサブテーマに、6人の専門家が発表を行い、議論を交わした。モデレーターを務めたセーフティグローバル推進機構（IGSAP）の梶屋俊幸理事は、テクノロジーだけでなく、マネジメントや人材を含めた包括的な「ホリスティックアプローチ」による標準化が重要であると指摘した。協調安全の国際標準化によって、職場の安全衛生リスクを最小限に抑えつつ、人間と機械の調和ある共存を可能にすることが再確認できた。

第三部：ウェルビーイングと標準化

6人の専門家が発表を行い、議論を交わした。モデレーターを務めた東洋大学名誉教授の山田肇博士は、各国の事例を集めて分析し国際標準にすることで、他国の政策展開やその改善に役に立つとともに、事例集的な標準化も意義深いと述べた。

また、ISOのCHO会長とIECのCOPS会長にコメントを求める一幕は、AIといった最新技術に対する国際標準化機関の高い意識を感じさせる、印象的な場面となった。社会的弱者や高齢者を含む全ての人々が豊かな生活とウェルビーイングを実感できる社会の実現には、国際標準化の推進が大きな役割を果たすことが再確認できた。

3．2025年大阪・関西万博　安全・健康・ウェルビーイング標準化宣言

最後に、JSA理事長の私が登壇者への謝意を述べ、成果として「2025年大阪・関西万博　安全・健康・ウェルビーイング標準化宣言」を会場に提案し、参加者の賛同を得てフォーラムを閉会した。本フォーラムは、さまざまな使命を持つ標準化の意義を再発見する貴重な機会となった。

4．EXPOホールでの標準化宣言の発表

7月17日、会場をEXPOホールに移し、「安全・健康・ウェルビーイング標準化宣言」を発表した。

壇上には、ISOのCHO会長、IECのMARG IS副会長を迎え、GISHWの向殿政男名誉チェアとJSA理事長の私が、前日のフォーラムの成果を報告した。続いて、私が宣言の概要と意義を説明し、今後もISOやIECなどの関連機関と連携し、国際標準化を通じて、より安全で安心な社会の実現に貢献していくというメッセージを発信した。

最後に、宣言文を会場に示しつつ登壇者4人が固い握手を交わしたことは、次世代の標準化を共に推進していく強い意志を示せたのではないかと考えている。

5．今後の取り組み

今回の国際標準化に関するイベントは、民間組織であるJSAが企画から実施までを主導し、国際色豊かな催しとなった。創立80周年を迎えたJSAにとって、今後の標準化の歴史に大きな足跡を残す、極めて意義深いイベントになったと確信している。登壇者の皆さまをはじめ、多大なるご協力を賜ったすべての関係者に、心より感謝申し上げる。

人々の安全・健康・ウェルビーイングの実現は、あらゆる組織の経営の中で最優先すべき課題だ。これを達成するには、経営トップの強いリーダーシップのもと、マネジメントシステムを効果的に運用し、安全技術と管理手法を最大限に活用して協調安全のコンセプトを根付かせることが不可欠。その揺るぎない基盤となるのが標準化だ。

JSAはこれからも、誰もが心身ともに健康で、安心して働ける職場環境や、安全な社会環境の構築を目指した標準化コミュニティーの形成に向け、さまざまな活動を実施・支援していく。